

臨時一語の分解を伴う言い換え

—小学生新聞を対象に—

A study on Paraphrase of Temporal Combined Words Targeting Schoolchildren

湯 浅 千映子*

Chieko YUASA

1 はじめに

子どもに向けて文章を書く際、書き手は、自身と年齢差のある読者対象を想定し、子どもを意識して、子どもがわかりやすいと思う文章を心がける。本研究は、大人の書き手が生成する「子ども向け」という文体を解明することを目的とする。

一般の新聞、そしてその新聞と見出し及び記事内容が対応する小学生新聞の文章を引き比べると、一般の新聞をもとに小学生向けに表現をかえたことがうかがえる。

以下は、一般向けの新聞の見出しとそれと内容を同じくする小学生新聞の見出しの例である。

(1) 小学校選択自由化：東京都品川区教委 40校4ブロックに分け

(毎日インタラクティブ 99年9月29日付)

⇒品川区が小学校を自由に選べるように

(毎日小学生新聞 99年9月30日付)

(2) 子供減少：15歳未満 前年より33万人減の1918万人

(毎日インタラクティブ 98年5月5日付)

⇒子どもの数さらに減る

(毎日小学生新聞 98年5月7日付)

(3) 中国残留孤児：最後の集団訪日調査団来日

(毎日インタラクティブ 99年11月1日付)

⇒中国残留日本人孤児、20人がきました

(毎日小学生新聞 99年11月4日付)

(1)は、「小学校」・「選択」・「自由化」の3つの漢語が集まって1つの語を形成している。これを小学生新聞では、「小学校」を目的語とし、「選択」を動詞にして「選ぶ」と和語の可能動詞で「選べる」とする。そこに「自由化」を副詞化させた「自由に」を添える。(2)は、「子どもの数が減る」として、漢語「減少」の名詞を和語動詞にひらき、(3)は、「集団訪日調査団」を(中国残留日本人孤児)「20人」と表現し、「来日」を「来ました」と、名詞から動詞の変換、漢語から和語への語種変換がある。

これらは、見出しの限られた文字数の中にニュース情報をまとめて示そうといくつも語を連ねてできた複合語「臨時一語」を分解する例である。

「臨時一語」とは、林(1982:15)によれば、臨時に作られ、その場限りで使用される単語のことである。「大量生産的な文章」とされる一般の新聞にこの臨時一語が頻繁に見られるという¹⁾。

この臨時一語を小学生新聞では、語基のレベルまで分解し、機能語を付加して、時に語種や表現をかえ、句や節の形にしていた。

* ゆあさ・ちえこ

関東学園大学経済学部専任講師

この臨時一語は、見出しだけではなく、記事本文の中にも登場する。

(4) 全野党欠席のまま施政方針演説が行われるのは戦後初めてであり、異常事態の中で与野党の対決ムードはエスカレートしている。

(毎日インタラクティブ 2000 年 1 月 28 日付)
⇒全部(ぜんぶ)の野党(やとう)が欠席(けっせき)したままで施政方針演説(しせいほうしんえんぜつ)をしたのは戦後初(せんごはじ)めてのことです。通常国会(つうじょうこっかい)は最初(さいしょ)から対決(たいけつ)ムードがたちこめてきました。

(毎日小学生新聞 2000 年 1 月 31 日付)

(5) ダイエーは 7 日から、88 円均一の自社開発商品「暮らしの 88」を全国 272 店で販売する。

(毎日インタラクティブ 2000 年 9 月 5 日付)
⇒大手(おおて)スーパーのダイエーは、七日(な)のかから全国百七十(ぜんこくひゃくななじゅう)のお店(みせ)で自分(じぶん)の会社(かいしゃ)で開発(かいはつ)した「暮(く)らしの 90」商品(しょうひん)を八十八円均一(はちじゅうはちえんきんいつ)で売(う)り出(だ)します。

(毎日小学生新聞 2000 年 9 月 7 日付)

大人であれば、臨時一語を形作る単語と単語の境界を認識し、そこに適当な助詞や助動詞を補い、頭の中で連結させ、その意味を解釈できる。しかし、小学生にとってその行程を辿るのは難しい。そこで、書き手の大人が臨時一語を分解し、機能語を付加することで、小学生にとって、その意味の読み取りがたやすくなる。

本稿では、一般の新聞とそれと内容を同じくする小学生新聞を取り上げ、一般の新聞と小学生新聞の臨時一語の出現傾向を見た上で、一般の新聞の臨時一語を小学生向けの表現にするためにどん

な操作がなされるのか、また、小学生にとって、臨時一語は難しいと言えるのか、実際の例を分析・考察する。

2 先行研究と本稿の立場

2.1 臨時一語化と脱臨時一語化

臨時一語について、石井(1993:101)は、「臨時一語の認定」で、「1 複数の単語が臨時的に結びついたものである」、「2-1 複合語である」、「2-2 複数の文節連続をその内部にもつことがある」、「3 もとの単語連続に復元することができる」と規定する²。1 について、石井(1993:101)は、辞書類に見出し項目がないことを判断基準としており、本稿もこれに沿う。「冠婚葬祭」⇒「結婚式やお葬式」・「疑似体験」⇒「本当ではないがよく似ている経験を実際に行ってみること」といった、辞書の見出し語にある語を小学生向けに句の形に言い換える例もあったが、本稿では分析対象としていない。

また、2-1 に従い、2 つ以上の単語から成る語を臨時一語とし、1 つの単語に接辞が伴う派生語(例「走行中⇒走っている」)は、分析対象から除外する。(1)「小学校選択自由化」・「試合終了後⇒試合が終わった後」など、2 つ以上の単語に続けて接辞が来る場合は、臨時一語と見なす。

3 で、復元後の単語連続の形が不自然だとされた固有名、組織名・役職名、時の表現、地名、数量に関する表現も本分析対象に含めていない。

さて、石井(2002:112)は、「単語連続から臨時一語をつくるその過程が文章の中に顕現している」ことを「文章における臨時一語化」とし、さらに、「先行する臨時一語をもとの単語連続に戻」し、臨時一語を復元する過程が文章上に現れることを「文章における脱臨時一語化」(1999:4)として、これら 2 つの現象を指摘した。

具体的に本稿で用いる一般向けと小学生向け

の新聞の記事本文から「臨時一語化」・「脱臨時一語化」を見てみよう。

読売新聞東京本社発行 1999年1月21日朝刊
「2001年にもサマータイム 今国会に法案提出」

自民、民主、公明など超党派の参院議員で作る「参議院サマータイム制度研究議員連盟」（代表世話人・倉田寛之、瀧上貞雄両参院議員）は20日までに、春から秋にかけて時計の針を一時間進める「サマータイム」を2001年から導入するための法案を開会中の通常国会に議員立法で提出する方向で一致した。地球温暖化対策の一環として、省エネと温室効果ガスの削減が見込めることや、ほとんどの先進国がすでに同じ制度を導入済みであることから、日本でも必要だと判断した。同議連は、サマータイム導入に対する世論の支持は年々高まっており、国会に法案が提出されれば成立する可能性が高い、と見ている。

記事本文で先行する「サマータイムを2001年から導入するための法案」とあり、これを後続の文で「サマータイム導入」と1語にまとめている。また、記事本文で「法案を」・「提出する（方向で）」、「法案が提出されれば」とあるものを見出し上で「法案提出」と表現しており、記事本文と見出しとの間に「臨時一語化」が起こっている。

同箇所のみずかしい言い回しの記事を小学生向けにわかりやすくした「しんぶんほんやくロゴ」の記事本文では、次のようになっていた。

自民党[じみんとう]、民主党[みんしゅとう]、公明党[こうめいとう]などの政党のわく組をこえて参議院議員が集まって作っている「参議院サマータイム制度研究議員連盟」（代表世話人・倉田寛之、瀧上貞雄両参院議員）は20日までに、春から秋にかけて時計の針を一時間進める「サマータイム」を2001年から始めようという法律の案を、今開かれている通常国会に議員立法[ぎいんりっぽう]で提出しようという意見でまとまりました。地球温暖化対策のうちのひとつとして、省エネと温室効果[おんしつこうか]ガスを減らすことが見込[みこ]めることや、産業の発達した国がすでに「サマータイム」を取り入れていることから、日本でも必要だと思いました。「参議院サマータイム制度研究議員連盟」では、サマータイムを取り入れることに賛成[さんせい]する人が年々多くなっていて、法律の案が提出されれば法律と

して認められる可能性が高い、と見えています。

一般の新聞の臨時一語「サマータイム導入」は、小学生向けには、「サマータイムを取り入れること」と表現され、また、一般の新聞の「導入済み」が「すでにサマータイムを取り入れていることから」となっている。

このように、一般向けの臨時一語を小学生向けにその要素を分解し、構文化させているという点で、一般の新聞から小学生向けの「脱臨時一語化」が起こっている。一般の新聞の臨時一語を小学生新聞で臨時一語が成立する前の元の単語連続に復元させているのである。

2.2 脱臨時一語化と形式的特徴

石井（1999：5）・石井（2007：284）は、「脱臨時一語化」の際、臨時一語と同じ単語を使って後続の単語列を組み立てる場合がある一方、単語の省略、付加、倒置、語種の変更や類義要素の変更などの形態変容を伴い、臨時一語の要素とは異なる単語から構成されることがあるという。

本稿冒頭の例文で見た通り、一般の新聞の臨時一語を小学生向けに言い換える際にもこうした形態変容と同様の現象が起きていた。

語種の変更と類義要素への変更は、前出（1）～（3）で見た通りである。また、前節の「サマータイム導入」を「サマータイムを取り入れていること」とした例も、漢語「導入」をサ変動詞の語幹として動詞化させ、さらに、和語化を経て「取り入れる」と類義の表現で言い換えている。

本稿では、一般の新聞と小学生新聞の間で起こる「脱臨時一語化」のうち、「語種の変更」または（同語種・異語種に関わらず）「類義要素の変更」の形態変容が生じた場合を臨時一語の「言い換え」現象とし、これを分析対象とする。

省略・付加については、ここで本研究で扱う新聞記事からその例を見ておく³。

〈単語の省略〉

「(中略) 目的意識を持って船出したのは確か」と分析する。

⇒「(中略) 目的をもって船を出したのは確かでしょう」と考えています。(読 990408)

(単語の付加)

企業などが使うタ方の照明用電力が節約できることなどから、

⇒会社などがタ方の照明用[しょうめいよう]に使う電力が少なくてすむことなどから、

(読 990121)

3 分析資料と分析の範囲

分析資料は、いずれもインターネット上にある新聞記事を用いた。

I Mainichi Interactive(以下「毎」とまい)ち小学生ニュース(以下「毎小」)見出し・本文とも内容が一致する1999年～2003年の記事のペア。

II よみうり博士のアイデアノート(以下「読」)。一般の紙媒体の読売新聞の記事と、その記事を小学生向けに表現を変えたものがネットで公開されている。1998年～2010年の記事。

以上の中から内容が対応し、小学生向けにリライトされた記事(「毎」115本・「読」103本)の臨時一語とその言い換えの例を取り上げる⁴。

本稿では、前節2.1の臨時一語の規定に該当する語で、前節2.2で触れた臨時一語の「言い換え」現象が生じる例のうち、一般の新聞で3字以上の語のまとまりで、用言に言い換え可能な単語を有するものが、小学生新聞では、機能語とともに動詞や形容詞・形容動詞を含む句や節で表現される例について分析する。

林(1983:22)でも「用言の性質をとどめた名詞」として、「赤字縮小」・「土地活用」・「収

入増」といった例を挙げ、「無活用動詞」で、「形は名詞でも、意味内容は動詞」というものを指摘している。

また、(5)「自社開発商品『暮らしの88』」や「青酸混入菓子」といった臨時一語を小学生向けに「自分の会社で開発した『暮らしの88』商品」・「青酸を入れた菓子」のように、臨時一語の前項を連体修飾語に、その後項を名詞で言い換える例も分析対象に含める。

本稿では、一般の新聞の臨時一語が小学生新聞で句や節の形にパラフレーズされる際のこうした臨時一語の「言い換え」について、両者を引き比べることで形式と意味の両面からその特徴を明らかにする。

4 小学生向けの臨時一語の出現傾向

まず、小学生新聞の記事本文において臨時一語が用いられているかどうか、その出現傾向について見ておきたい。本分析資料の読売新聞の記事(41本)の中で2節で見た条件に適合する臨時一語は、全部で312(1記事平均7.6)あった。その内訳は、Aは小学生新聞でも臨時一語を踏襲する例、Bは小学生新聞で何らかの形で臨時一語の表現を変える例である。結果は、以下の表の通り。

A	1 リンクなし・そのまま用いる	52
	2 用語解説のリンクあり	32
B	1 臨時一語の単語に助詞、助動詞を付加	50
	2 臨時一語の単語を言い換える	80
	3 臨時一語全体を言い換える	98

A 小学生向けで臨時一語を用いる

A - 1の例

伝統工芸品 五輪開会式 女性市長

A - 2の例

食料需給構造【農作物を市場に出すしくみ】 一定基準【物事を判断するためのある一定の決まりをつけること】

B 小学生向けで臨時一語を用いない

B - 1の例

市内小学6年生⇒市内の小学6年生 条例改正案⇒条例を改正する案 全野党欠席⇒全部の野党が欠席したままで 自社開発商品⇒自分の会社で開発した商品 法案提出⇒法律の案を提出したのですが

B - 2の例

カツオ消費量⇒カツオを食べる量 輸入依存度⇒輸入にたよるわりあい 土壌汚染⇒土が汚染されたとき 汚染土壌⇒汚染されてしまった土 最大手銀行⇒いちばん大きい銀行 外国企業⇒いろいろな国の会社 国際企業⇒世界の大きな会社

B - 3の例

水産庁幹部⇒水産庁で中心になって働いている人 市場関係者⇒市場で野菜を売っている人 長期低落傾向⇒これまでずっと投票率が下がっていったことに 浄化対策⇒害のないものにする 宗教形態⇒独特のキリスト教の信じ方

Aで見ると、臨時一語は、小学生向けにも登場する。小学生向けで言い換えずにそのまま用いるものが84組あり、そのうち、「食料需給構造」を小学生向けでリンクを付けて「農作物を市場に出すしくみ」、「一定基準」を「物事を判断するためのある一定の決まりをつけること」とするよう、用語の解説や意味を添えるものが32組であった。

対して、Bの小学生向けで臨時一語に言い換えた例は、228組あった。このうち、「条例改正案」や前出の(4)「全野党欠席」、(5)「自社開発商品」など、一般向けの臨時一語の単語をそのまま用いて助詞や助動詞、動詞の語尾を付加した例(B-1)は50組あった。

本稿の分析の中心となる、形態変容の生じる臨時一語の言い換え(B-2、B-3)は、178組であった。これらは、臨時一語を成す前項や後項それぞれに相当する語句で「語種の変更」や「類義要素の変更」を伴って言い換える場合(B-2)と、臨時一語全体で意味をとらえ、それに相当する類義の表現で一般向けと小学生向けを対応させる場合(B-3)とが見られた。

これについては、石井(1999:5)にも言及がある。臨時一語の複合名詞に対し、非名詞的な連語や句、節、文や連文の場合もあり、臨時一語と単語連続と意味内容が正確には同一ではないこと、両者は交換可能ではないとしている。

次節以降では、B-2、B-3に分類される中で、「用言の性質をとどめる名詞」を有しており、そこに動作性を読み込むことのできる臨時一語に限定して見ていく。ここで分析対象としたのは、以下のような例である。

臨時一語の単語に動作性を読み込むB - 2

大規模改修⇒大規模につくり直す 輸送コスト⇒物を運ぶお金 銅像建設⇒銅像を建てること 急速冷凍⇒急げきにこおらせるため カツオ消費量⇒カツオを食べる量 敵中突破⇒敵につこんだ 建設計画⇒作ろうという計画 人口増加⇒人口がとても増えていた 流域面積⇒流れている面積 条例制定⇒条例を作ったり 政党不信⇒政党が信じられなくなって キリスト教禁教下⇒キリスト教が禁止されている中で 後継者不足⇒後継ぎがいなくなって 民俗学的見地⇒民俗学から見ても 浴衣製造⇒浴衣づくり 指導的役割⇒教える役割 輸入依存度⇒輸入にたよっているわりあい 生産拡大⇒生産をふやすよう 過剰摂取⇒取りすぎないようにする サマータイム導入⇒サマータイムを取り入れること 導入済み⇒取り入れていることから 住宅着工件数⇒住宅を建てる件数 年間増加率⇒1年間に増えた人口の割合 増加傾向⇒増え続ける 合理的推進⇒スムーズな対策を推し進める ごみ処分⇒ごみを燃やして処分しています ダイオキシンの検出⇒ダイオキシンが発見さ

れました 土壌汚染⇒土が汚染されたとき 汚染土壌⇒汚染されてしまった土 トラブル防止⇒トラブルをさけるために 電子取引⇒やりとりされる 執行状況⇒おこなわれている状況

臨時一語の単語に動作性を読み込むB - 3

発起人会⇒運動を始めた人々 年間商材⇒年間を通して売られるようになってきました 教員公募⇒先生になる試験に応募して 巡回公演⇒いろいろな所をまわっておこなう公演 拡大交渉⇒12 か国と同時に加盟するかどうかを決める話し合いを行うこと 長期低落傾向⇒これまでずっと投票率が下がっていったことに 入域手続き⇒北方領土を訪れるための手続き 対象人数⇒自由訪問ができる人 宗教形態⇒独自のキリスト教の信じ方 原告勝訴⇒訴えた側の意見が認められたことから 相互理解⇒日本と中国の間の理解を深めるために 食料需給⇒世界の食材の求められている量と作られる量 東進過程⇒東のほうへ伝わっていく様子 世論形成⇒世間でサマータイムを望む声が多くなかったことから 保健分野⇒国民の健康を守るために 排出実態⇒どうやってどんなところから出されるのか 汚染実態⇒汚染されているということなので 浄化対策⇒害のないものにする対策 情報関連企業⇒インターネットを使って仕事をしている会社 代金決済⇒いろいろな国のお金で支払うやり方 電子商取引部門⇒インターネットを使って貿易をする部門 インフラ整備⇒インターネットの工事など 全世帯保有⇒すべての家庭でできるのは

5 臨時一語の言い換えの形式的特徴

5.1 臨時一語の後項を言い換える

一般の新聞にある臨時一語を小学生向けに用言を含む句や節の形にして言い換える際、その構造を見ると、臨時一語の後要素（後項）の部分にもともとサ変動詞化できる、動詞性をもった漢語名詞が位置するものが中心であった⁵。

(6) 輸入は単価の大きい大型航空機の発注増で、(読 990125)

⇒輸入している品物ごとにみても、値段のたかい大型航空機の注文がふえたので、

(7) 同議連は、サマータイム導入に対する世論の支持は年々高まっており、(読 990121)

⇒「参議院サマータイム制度研究議員連盟」では、サマータイムを取り入れることに賛成する人が年々多くなっている、

(6) は、臨時一語の後項の字音形態素「増」を動詞化しており、(7) も臨時一語の後項の「導入」を和語の動詞「取り入れる」に変換した上で「こと」を付し、名詞化している⁶。

(8) 女子HPで三宅陽子（スポーツファンクション）がW杯初制覇を果たした。(毎 000220)

⇒女子ハーフパイプ（HP）で三宅陽子選手（スポーツファンクション）がW杯で初めて優勝しました。(毎 000222)

(8) は、臨時一語の後に機能動詞を伴う例である。後項の動詞性の語基「制覇」が後続する機能動詞「果たす」と融合し、臨時一語と同じ漢語の動詞「優勝する」となり、臨時一語との意味を対応させている。

この他、臨時一語の後項にサ変動詞化できる要素がないが、後項の名詞から動詞性を読み込んで言い換える例があった。

(9) 世界のメーカーが燃料電池車の開発にしのぎを削るなど、環境対策を軸に大きく自動車が変わろうとしている。(読 010703)

⇒世界のメーカーが燃料電池車の開発に力をそぐなど、環境について考えることで自動車が大きく変わろうとしています。

(9) は、一般の新聞の臨時一語の後項「対策」自体には動作性はないが、「対策をとる」と動詞的にとらえ、そこから派生して「考える」としたのだろう。

5.2 臨時一語の前項を言い換える

一方、臨時一語の後項ではなく前項にサ変動詞化できる語が存在する場合もある。

(10) 当選者には試合終了後、村でとれた新鮮なレタス計 3000 個をプレゼントする。

(読 051104)

⇒当たった人には試合が終了後、村でとれた新鮮なレタス計 3000 個をプレゼントします。

(11) 丸大食品、森永製菓、ハウス食品、不二家、駿河屋の食品企業各社を恐喝して裏取引を工作、店頭などに青酸混入菓子をばらまいて、社会を混乱に陥れた。(毎 000213)

⇒また、丸大食品、森永製菓などをおどし、お店に並んだ菓子の中に猛毒の青酸を入れた菓子をおいたり、と日本中を恐怖におとしれました。

(毎小 000215)

(10) は、臨時一語内で用言化できる「終了」の部分のを和語の動詞に変換して「終わる」とし、接辞「後」が続いている。(11) は、臨時一語の中で「混入」の部分のを連体修飾の形に言い換え、後の「菓子」が被修飾語となっている。

(12) 厚生省が薬害の再発防止に努める「誓いの碑」が東京・霞ヶ関の同省庁舎敷地内に完成、

(毎 990606)

⇒薬害エイズ事件を二度と起こさない、という「誓いの碑」が東京・霞ヶ関の厚生省庁舎敷地内に完成しました。(毎小 990609)

(12) は、臨時一語の前項の動詞性のある字音形態素「発」を和語化させ「起こす」となり、そこに後項が機能動詞化し、否定の意味をあてはめ、「起こさない」としている。

さらに臨時一語の前項の名詞に動詞性を読み込み、言い換える例もあった。

(13) 昨年 3 月には競合するディレク TV と事業統合して我が国唯一の CS プラットホームとなったスカパー。(読 010611)

⇒昨年 3 月にはライバル会社のディレク TV といっしょに仕事をするようになって、日本でたったひとつの CS を使った放送局となったスカパー。

臨時一語の後項のサ変動詞化が可能と思われる「統合」の方ではなく、前項の名詞「事業」から意味を類推し、「仕事をする」と動詞で表し、「統合」は「いっしょに」と副詞的表現となっている。

5.3 臨時一語の言い換えによる前項と後項の格関係

臨時一語を分解する例を見ると、臨時一語の前項と後項がどういった格関係で一つの語を構成していたかがわかる。

まず、臨時一語の前項の名詞を「ヲ格」の目的語にし、後項は他動詞で言い換える例がある。

《名詞ヲ動詞》

(14) 銅像建設の発案者は海舟研究の専門家で、元台東区教育委員長の鶴沢義行・日大名誉教授。

(読 000409)

⇒銅像を建てることを考えたのは海舟を研究している専門家の、元台東区教育委員長、鶴沢義行・日大名誉教授です。

(15) 同社ははえぬき採用にあたり、農家ごとに使用農薬や肥料などを記載した栽培履歴書の徹底を両本部に求めているといい、(読 021213)

⇒セブン—イレブン・ジャパンははえぬきを使うにあたって、農家ごとに使った農薬や肥料などを書いた栽培履歴書の徹底を両本部に求めているといい、

(16) ユネスコ・アジア文化センター(東京都新宿区)は昨年、インドの読書センター開設などで約 217 万円の配分を受けたが、(読 990118)

⇒ユネスコ・アジア文化センター(東京都新宿区)は昨年、インドの読書センターを作ったりする時に約 214 万円のお金を受け取りましたが、

前項の名詞を「ガ格」にして句や節に言い換える例もある。

《名詞ガ動詞》

(17) その結果、宇宙膨張速度を測る基準点とされる、地球から 326 万光年の地点では、

(毎 990526)

⇒その結果、宇宙がふくれる速さを測る基準点とされる、地球から三百二十六万光年の地点では、(毎小 990603)

この他、前項の語を「ニ格」や原因を表す「デ格」、副詞的表現にして言い換える例があった。

《名詞ニ動詞》

(18) 毛利さんのシャトル搭乗は 2 回目で、日本人として最年長の宇宙飛行になる。

(毎 000212)

⇒毛利さんがシャトルに乗ったのは2 回目で、日本人最年長の宇宙飛行になります。

(毎小 000215)

《名詞デ動詞》

(19) 病気欠場の主力選手に代わって FW を務めたトッティは、(読 000118)

⇒病気で休んでいる主力選手に代わって FW をやったトッティは、

《副詞+動詞》

(20) さおで釣り上げた直後に、塩などを入れたマイナス 20 度前後の水溶液に漬けて急速冷凍するので、(読 000416)

⇒さおで釣り上げた直後に、塩などを入れてとかけたマイナス 20 度ぐらいの水につけ、急げきにこおらせるため、

6 小学生新聞における臨時一語の言い換えの意味的特徴

小学生新聞では、一般の新聞の臨時一語を漢語から和語へと語種を変更させたり、類義要素への変更といった「脱臨時一語化」と同様の操作を経

て、小学生にも理解可能な表現にしていた。その際、4 節で見た通り、臨時一語の語の意味に忠実に、逐語的に言い換える場合 (B-1) と、臨時一語に含まれる語の本来の意味を離れ、臨時一語全体で意味をとらえ、小学生にも理解できるような表現をかえる場合 (B-2) の 2 つに分けることができた。

湯浅 (2010 : 259) では、一般向けと小学生向けの携帯電話の取扱説明書の文章を比較し、一般向けと小学生向けの語同士の類義関係を『分類語彙表』の分類番号の一致度、辞書の記述や内省によって以下の 5 つのパターンに分類した。

I 元の語と言い換え後の語同士の類義対応有
a 全体重複型 b 包摂型 c 部分重複型
II 元の語と言い換え後の語同士の類義対応無
d 同事態型 e 別事態型

臨時一語の単語を小学生向けに言い換える際の両者の意味のちがいがこの 5 パターンに集約できる。

6.1 逐語的言い換えの場合

まず、B-1 の例から見て行こう。

(14) 「銅像建設⇒銅像を建てる」の「建設 (する)」と「建てる」、(17) 「宇宙膨張速度⇒宇宙がふくれる速さ」の「膨張 (する)」と「ふくれる」、(18) の「シャトル搭乗⇒シャトルに乗る」の「搭乗 (する)」と「乗る」の場合、分類番号・段落番号とも一致し、意味が同じで文体的特徴のみが異なる「全体重複型」である⁸。

(1) 「小学校選択自由化」の「選択 (する)」と言い換え後の「選ぶ」も分類番号と段落番号が全て一致することから、「全体重複型」である⁹。

(15) は、「はえぬき採用⇒はえぬきを使う」の「採用 (する)」と「使う」は分類番号が一致し、小学生向けの「使う」を上位語とし、「採用 (する)」との間に包摂関係のある「包摂型」と

した¹⁰。(3)「集団訪日調査団来日」の「来日(する)」と小学生新聞の「来る」も分類番号までが一致する、「包摂型」である¹¹。

(16)の「読書センター開設⇒読書センターを作る」の場合、「開設(する)」と「作る」の分類番号の上2桁の「部門」のみが共通する¹²。「開設(する)」はその字音形態素の意味から「大規模な施設を作り、事業などを始める」という2つの段階を示す語である。小学生向けではそのうち一方の「作る」段階を取り上げて表していることから、この場合、両者の意味が部分的に重なる「部分重複型」となる。

6.2 類義対応がない言い換えの場合

ここで扱うのは、臨時一語を構成する単語を小学生向けに言い換えた例で、一般の新聞の文脈を小学生向けでも保持しているが、その言い換え語が臨時一語の単語が有する元の意味から離れているB-2の例である。まず、「同事態型」である。

《同事態型》

(21) 食料自給率引き上げのため、輸入依存度の高い小麦、大豆、飼料作物などの生産拡大を図るとともに、(読990416)

⇒食料自給率を引き上げるため、輸入にたよっているわり合いの高い小麦、大豆、家畜のえさにするための作物などの生産をふやすように計画して、

「生産拡大」は、その後項の2字漢語「拡大」を動詞化させ、「ふやすように」として、後出の動詞「計画して」につなげている¹³。「拡大する」は、平面の横の広がりをおおきくすることであり、グラフ上の数値の上下移動をイメージさせる。一方の「ふやす」は、数や量を多くすることで、直接的かつ具体的な描写となっている。同じ事態でも一般向けと小学生向けでその視点が異なる例である。

(22) 来年6月にサービスを開始、2002年までに全国のコンビニ5000店に24時間稼働のATMを設置する。(毎990906)

⇒コンビニエンスストアに現金自動受払機(ATM)を置く新会社を東京三菱銀行やファミリーマートが作り、来年六月にサービスを始め、二〇〇二年までに全国のコンビニ五千店に二十四時間利用できるATMを置きます。(毎小990916)

「24時間」という時間の表現を副詞として後項の「稼働」を修飾する構造をとる臨時一語である¹⁴。小学生向けでは、語種は漢語のまま「利用できる」としている。「稼働(する)」は、ATMという機械を動かし、機能させることであり、「利用する」は、その機械を使うことである。「稼働」は、ATMを設置した新会社側から記述し、一方、「利用できる」は、ATMを使う客の側からの記述である。子どもにとってより身近に感じられるATMを使う立場からの記述することを意図して、臨時一語の「稼働」と意味がほぼ重なる「動く」ではなく、「利用できる」としたものと思われる。

(23) 同県は93年、計740ヘクタールの埋め立て計画を策定したが、環境保全の機運が高まり、99年6月に埋め立て計画を縮小していた。

(毎010926)

⇒千葉県は一九九三年に七四〇ヘクタールを埋め立てて工場や住宅などの用地にする計画を作りました。その後、自然を残そうという機運が広がったため九九年に埋め立て地を計一〇一ヘクタールに縮小して代わりに東京湾岸道路や下水道の終末処理場を造る計画に変えました。

(毎小011001)

「保全」を後項にもつ臨時一語の例は他にもあり、「自然保全の推進⇒自然を守る活動」と「守る」で言い換えていた。一方の(23)では、臨時一語の後項の2字漢語「保全」を「残す」と言い換え、その前項の目的語に相当する部分(「環境

を」⇒「自然を」)も一般の新聞と小学生新聞で異なる¹⁵。「環境を守る」では、意味が漠然とし、人間が実際にどんな行動をとったかわからない。「自然を残す」となれば、人口干潟の埋め立て規模を縮小し、自然干潟の部分で「残す」という、環境を守るために人間が行った具体的な方策が見えてくる。

《別事態型》

(24) 中でも、加入者獲得に貢献したのが、野球やサッカー、格闘技といったスポーツの中継。

(読 010611)

⇒なかでも、加入者を増やすのに成功したのが、野球やサッカー、格闘技といったスポーツの中継です。

臨時一語の後項の2字漢語「獲得(スル)」は、加入者を一人また一人と得ていく過程を描いており¹⁶、その行為を積み重ねることで加入者を複数人数へと増やしているのである。よって、一般向けの臨時一語とそれを分解した小学生向けの表現とが時間的に別の事態を描写したことになる。

(21) の「ふやす」と言い換えた例同様、臨時一語の「獲得」、またはそれを意味がほぼ重なる和語「(人)とる」で表現するよりも「(人)増やす」とした方が結果に即した具体的な表現であり、事態をイメージしやすい。

(25) 各地の自治体で条例制定や子どもの意見を生かした施設づくりなど、多彩な取り組みが広がっている。

(読 990921)

⇒各地の自治体では条例を作ったり、子どもの意見を生かした施設をつくったりと、さまざまな取り組みが広がっています。

臨時一語の後項の2字漢語「制定」は、人々が協議をし、条例を作るという前提の下、最終的にその条例を決定事項として世に示すことをさす¹⁷。小学生新聞ではその条例を「作る」ことのみしか

描かれていない。一般の新聞の臨時一語は結果を、小学生向けの言い換え語では条例を世に送る前の段階を取り出して表しており、両者が時間的に前後する別の事態を表している。また「制定」が条例を作るという過程を経てそれが世間に知られるという静的な状況を表すのに対し、「作る」は、人間が実際にとった動作を描いたと言えよう。

7 まとめ

本稿では、一般向け新聞の臨時一語の小学生向けの言い換えによって生じる様々な現象に焦点を当てて、「子ども向け文章」を実現する一つの様相を明らかにした。

臨時一語を言い換えるという見地から臨時一語の特徴を考えると、臨時一語を語基に分解し、機能語を付加し、句や節にする過程では、「語種の変更」や「類義表現への変更」といった、臨時一語から元の単語連続へと還元する「脱臨時一語化」と重なる現象が起きていた。

そして、「類義表現への変更」の場合、一般の新聞の臨時一語とそれを分解し、小学生向けに言い換えた語との間に意味の差が生じる場合があり、一般の新聞の臨時一語とは異なる視点から描いたり、一般の新聞の臨時一語と前後する時点の事態として表す例も見られた。子どもがより身近に感じる立場からの描写にかえたり、臨時一語による抽象的な描写を人間が実際にとる具体的な動作にして表していた。これは、小学生新聞の読者層が小学生に限定されるため、書き手自身の判断でその特定の読者に向け、事態をわかりやすく説明するだけでなく、小学生により的確に記事内容が伝わるよう、一般の新聞と小学生新聞の間で意味に差が生じるという多少の犠牲を払ってでも、一般の新聞の記事の描写に書き手の解釈を加えて提示した結果であると思われる。

今後は、チャイルドトークとの関連、また小学

校でのN I E活動など新聞を授業で活用する際に、臨時一語をどう授業に導入し、それによって記事をどう読み解くかという、実際の教育現場に直結した実践的な研究へと広げていきたいと考えている。

参考文献

- 石井正彦 (1993) 「臨時一語と文章の凝縮」『国語学』173
- 石井正彦 (1999) 「文章における『臨時一語化』と『脱臨時一語化』—脱臨時一語化の形式を中心に」『日本語研究』1 東京都立大学
- 石井正彦 (2001) 「臨時一語と文章」『日本語学』20 (9)
- 石井正彦 (2002) 「『文章における臨時一語化』の基本類型」玉村文郎編『日本語学と言語学』明治書院
- 石井正彦 (2007) 『現代日本語の複合語形成論』ひつじ書房
- 影山太郎 (1993) 『文法と語構成』ひつじ書房
- 国立国語研究所 (1965) 『類義語の研究』秀英出版
- 国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表 増補改訂版』大日本図書
- 田中章夫 (1999) 『日本語の位相と位相差』明治書院
- 林四郎 (1982) 「臨時一語の構造」『国語学』131 国語学会
- 野村雅昭 (1999) 「サ変動詞の構造」森田良行教授古希記念論文集刊行会編『日本語研究と日本語教育』明治書院
- 湯浅千映子 (2009) 「小学生新聞の言い換え操作—動詞を対象に—」『日語日文学研究』70号 韓国日語日文学会
- 湯浅千映子 (2010) 『現代日本語の文章における読み手の年齢差に応じた表現の類型』学習院大学人文科学研究科博士 学位論文 (未刊行)
- 湯浅千映子 (2010) 「小学生向け文章の書き分けの諸相—携帯電話の取扱説明書を資料に—」『日本語・日本語教育研究』1号 日本語・日本語教育研究会

- ¹ 臨時一語が新聞の記事本文で多く見られることについて、林 (1983: 22) は、「長い臨時一語を作って名詞的なかたまりを大きくし、それを運用する文法は、なるべく簡単なルールですまそうという志向が、大量生産的な文章では、多く働くのではあるまいか」としている。
- ² 石井 (1993: 101) は、臨時一語をもとの単語連続に復元する方法を4つあげる。①復元は臨時一語を構成する要素のみによって行う。ただし、助詞・助動詞・サ変動詞「する」接辞「的」いわゆる後置詞的な要素「[こつて]」形式名詞「ために」を補うことを認める。②漢語サ変動詞の語幹を含む臨時一語は、できるかぎり、サ変動詞を含む表現に復元する。その際、文中の他の語あるいは臨時一語内の他の要素の文法的な形式を変更することを認める、などである。
- ³ 例文は、左が一般の新聞の例、矢印をはさんで右が小学生新聞の例である。例に付した数値は記事の掲載年月日である。以下の例文の表示もこれに従う。
- ⁴ 小学生向けの記事には、適宜ふり仮名がふってあるが、本稿ではスペースの都合上省いた。
- ⁵ サ変動詞化する二字漢語について、野村 (1999: 11) は「サ変動詞の主成分となる字音語基が、1単位のものはもちろんのこと、3単位、4単位の複合語基でも、動詞性の語基をふくむ」ことがあり、3単位、4単位の複合語基では、その動詞性のある字音語基が「後要素として位置する」という。また影山 (1993) は、名詞+動詞型の複合語のうち、四字漢語は右側主要部の規則に従い、右側の動詞的な要素が主要部となるとしている。
- ⁶ 他にも「ように」や「ときに」と補文の構造に変えるものがあつた (例 (2) 「小学校を自由に選べるように」・「石油枯渇に備えて⇒石油が出なくなったときに備えて」)。
- ⁷ 前項が実質的意味をもち、後項が文法的機能を担う例は他に「文字を乗せる媒体の発展推移を⇒文字を書く媒体が発達していくのを」のように、後項の語をアスペクト表現に置き換える例があつた。
- ⁸ 以下に『分類語彙表』の分類番号を示す。
建設する 2.3822-01・2.3823-02/建てる 2.3823-01
膨張・膨脹する 2.1581-11・2.5160-12/
膨れる 2.1581-11・2.3012-06・2.3030-13
搭乗する 2.1541-02/乗る 2.1112-02・2.1541-02
- ⁹ 選択 (する) 2.3063-07/選ぶ 2.3063-07
- ¹⁰ 採用する 2.3063-10・2.3630-06・2.3852-04/使う 2.3630-14・2.3852-03
- ¹¹ 来日 (する) 2.1527-10/来る 2.1527-07
- ¹² 開設する 2.1502-04/作る 2.1220-05・2.3200-01・2.3860-02・2.3801-01・2.3842-02
- ¹³ 拡大する 2.1581-08/ふやす 2.1580-02
- ¹⁴ 稼働・稼動する 2.1510-01・2.3430-10 /利用する 2.3852-05
- ¹⁵ 保全する 2.1240-01/ 残す 2.1240-04・2.1931-05
- ¹⁶ 獲得する 2.3700-01/増やす 2.1580-02
- ¹⁷ 制定する 2.3067-08/作る 2.1220-05・2.3200-01・2.3860-02・2.3801-01・2.3842-02